

1. 本授業科目の基本情報			
講義名 (コード)	TGB103A	TGB_ビジネスマナー I_A	
科目名 (コード)	TGB103	TGB_ビジネスマナー I_A	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位30
授業担当者		時間数	
成績評価教員		講義期間	春期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生が自己理解、管理能力向上の基礎を理解し、ビジネス実務マナー知識の習得、及び演習を通してビジネス社会の基本ルールを理解できるようになる。
全体の内容と概要	ビジネスマナーにおける基本的な知識を学び、ビジネスマナーにおける実践力、社会人としてのマナーを身につける。ビジネス実務の遂行に必要な一般知識の習得、業務遂行を行うのに必要な技能の取得を目指す。
授業時間外の学修	授業開始までに、必ず一読してくる。復習課題としてレポートの提出を求めることがあります。
履修上の注意事項等	マナーの授業であると心得、授業中の態度、及び言葉遣い等に気をつけること。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介・講義内容説明・基本英語学習	英語で自己紹介、講義内容と評価方法などを説明。日本の義務教育で学んできた英語よりさらにレベルアップした実践英語の学習法について説明
2	Session 1: 1 日本人と働く心構え	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 教科書の基礎知識を学ぶ
3	Session 2: 1 日本人と働く心構え	宿題確認 日本での基本ビジネスマナーを学ぶ ケーススタディを学ぶ
4	Session 3: 2 上司・先輩との付き合い方	日本での団体行動と会社での付き合い方 教科書の基礎知識を学ぶ
5	Session 4: 2 上司・先輩との付き合い方	宿題確認 日本での基本ビジネスマナーを学ぶ ケーススタディを学ぶ
6	Session 5: 3 同僚との付き合い方	日本での団体行動と会社での付き合い方 教科書の基礎知識を学ぶ
7	Session 6: 3 同僚との付き合い方	宿題確認 日本での基本ビジネスマナーを学ぶ ケーススタディを学ぶ
8	Session 7: 4 就業時間外の付き合い方	会社での人間関係 教科書の基礎知識を学ぶ
9	Session 8: 4 就業時間外の付き合い方	宿題確認 日本での基本ビジネスマナーを学ぶ ケーススタディを学ぶ
10	Session 9: 5 ウチとソトの関係	会社での人間関係 教科書の基礎知識を学ぶ
11	Session 10: 5 ウチとソトの関係	宿題確認 日本での基本ビジネスマナーを学ぶ ケーススタディを学ぶ
12	Session 11: 6 チームワーク	日本独特のチームワークの重要性を学ぶ 教科書の基礎知識を学ぶ
13	Session 12: 6 チームワーク	宿題確認 日本での基本ビジネスマナーを学ぶ ケーススタディを学ぶ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール（改訂版） 武田聡子・長崎清美著
参考文献・資料等	日本電御就職活動ケーススタディ
備考	

1. 本授業科目の基本情報

講義名 (コード)	TGB107A	TGB_ビジネス英語 I_A		
科目名 (コード)	TGB107	TGB_ビジネス英語 I_A		
対象学科	国際コミュニケーション学科		配当学年	2年生
対象コース	GB1		単位数	2単位30
授業担当者	福島 ジェニー		時間数	
成績評価教員	福島 ジェニー		講義期間	春期
実務者教員	いいえ		履修区分	
実務者教員特記欄				

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	The objective of this class is to enhance students' English vocabulary from mid-frequency to high frequency by introducing and reinforcing 600 essential words and other additional target words.
全体の内容と概要	Each lesson targets the vocabulary that they need to learn with each definitions and word functions. Students will apply the acquired knowledge in each given exercises for application and
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 14: The history of parachutes- Word list; Exercises; Reading Comprehension; Class
2	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 15: Microchips-Word list; Exercises; Reading Comprehension
3	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 16: The new Bioco-Word list; Exercises; Reading Comprehension
4	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 17: The resourceful landlord-Word list; Exercises; Reading Comprehension
5	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 18: The first organ transplant-Word list; Exercises; Reading Comprehension
6	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 19: The north star-Word list; Exercises; Reading Comprehension
7	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 20: Dressed to excess -Word list; Exercises; Reading Comprehension
8	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 21: Amazing Komodo Dragons-Word list; Exercises; Reading Comprehension;
9	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 22: Greek magical papyri-Word list; Exercises; Reading Comprehension
10	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 23: Dangerous bites -Word list; Exercises; Reading Comprehension
11	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 24: A The Lydian King- Word list; Exercises; Reading Comprehension
12	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 25: The end of smallpox-Word list; Exercises; Reading Comprehension
13	Enable the students to acquire useful vocabulary from average	Unit 26: Epidemic in Zimbabwe-Word list; Exercises; Reading Comprehension
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	4000 Essential English Words 4
参考文献・資料等	
備考	An instructor may provide supplementary materials.

1. 本授業科目の基本情報			
講義名 (コード)	TGB109A	TGB_TOEIC I_A	
科目名 (コード)	TGB109	TGB_TOEIC I_A	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位30
授業担当者	アーネスト・バナーマン	時間数	
成績評価教員	浅沼涉	講義期間	春期
実務者教員		履修区分	必須
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	Each student can gain confidence for several challenges for studying English and overcome those difficulties.
全体的内容と概要	Basic listenign and reading TOEIC practice
授業時間外の学修	Self study English word, grammar, and speaking
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Self-introduction and explaining about TOEIC test	basic English and practice
2	Chapter 1: Listening practice Part 1: Photographs, Part 2: Q&R	Explaining about the first part of TOEIC test
3	Chapter 1: Listening practice Part 1: Photographs, Part 2: Q&R	Explaining about the first part of TOEIC test plus practice test
4	Chapter 1: Listening practice Part 3: Conversation, Part 4:	Explaining about the first part of TOEIC test
5	Chapter 1: Listening practice Part 3: Conversation, Part 4:	Explaining about the first part of TOEIC test plus practice test
6	Chapter 2: grammar practice Part 5: sentences, Part 6: text	Explaining about the first part of TOEIC test
7	Chapter 2: grammar practice Part 5: sentences, Part 6: text	Explaining about the first part of TOEIC test plus practice test
8	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ①	Explaining about the first part of TOEIC test
9	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ①	Explaining about the first part of TOEIC test plus practice test
10	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ③	Explaining about the first part of TOEIC test
11	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ③	Explaining about the first part of TOEIC test plus practice test
12	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ⑤	Explaining about the first part of TOEIC test
13	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ⑤	Explaining about the first part of TOEIC test plus practice test Final exam review
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Taking the TOEIC skills and strategies 1 ISBN 978-1-64015-071-3
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Entrepreneur概論 I		(TGB121)
講義名 (コード)	Entrepreneur概論 I A		(TGB121A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	横井 博文	時間数	30時間
成績評価教員	横井 博文	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は関連業界で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	スタートアップを志し、社会課題への関心が高く、多様性・包摂性を尊重したいと考えている学生を対象にスタートアップを立ち上げるために必要なスキルとマインドを体系的に学ぶ構成です。英語の理論枠組みはそのまま活用しながら、日本語で学びやすいように構成しています。 春期は、多様性・包摂性、デザイン思考、スプリント、社会課題の理解をベースに、チームで構想・試作する力を養う。
全体の内容と概要	インクルーシブ・イノベーションとソーシャルアントレプレナーシップ：みんなのために築く (英題：Inclusive Innovation & Social Entrepreneurship: Building for Everyone) - 多様性と包摂性を組み込んだプロダクト・サービス開発の基本を理解する - デザイン思考、スプリントモデル、ドラゴンフライ・エフェクトなどの手法を実践的に習得する - EQ (感情知性) や学習するリーダーシップを育成する - 実社会の課題を解決するプロトタイプを構築し、社会的影響を可視化する
授業時間外の学修	自分が起業するとして何をどうやるか? を常に考える
履修上の注意事項等	常に自分が起業する前提に立って授業に参加する

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	コース導入	目的・目標設定、自己紹介 コース全体マップ
2	DEIの重要性	『Building for Everyone』1章、多様性の誤解と本質 DEIの基本概念
3	EQとリーダーシップ	EQ診断、リーダーとしての自己理解 Primal Leadership/Emotional Intelligence
4	デザイン思考①	共感・観察：ユーザーインタビュー Design Thinking (Empathize)
5	デザイン思考②	課題定義と洞察 Define/How Might We
6	デザイン思考③	アイデア創出と評価 Ideate/Brainstorming
7	デザイン思考④	プロトタイプの作成方法 Prototype/紙とデジタル
8	スプリント導入	『Sprint』の考え方とDay 1~2準備 Sprint Model
9	スプリント実施	Day 3~5 (プロトタイプ作成とユーザーテスト) Sprint 実践
10	スプリントの振り返り	チームごとの学びと課題の共有 Learning Leadership
11	コミュニティ・オブ・プラクティス	仲間と共に学び合う場を構築 Community of Practice
12	ソーシャルアントレプレナーシップ	社会課題とビジネスの接点 Social Entrepreneurship
13	バイアスと倫理	データ活用時の注意点と倫理 『Building for Everyone』3章
14	中間ピッチ準備	ストーリーボードとピッチ構成 Dragonfly Effect: Focus
15	中間ピッチ発表	5分ピッチ+フィードバック プレゼン技法と反省会

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Google流 ダイバーシティ&インクルージョン (アニー・ジャン=パティスト)
参考文献・資料等	EQリーダーシップ 成功する人の「こころの知能指数」の活かし方 (ダニエル・ゴールマン、他)、ソーシャルイノベーションの始め方 (SSIR Japan)、これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。(SSIR Japan)、ソーシャルメディアで世界を変える ドラゴンフライ エフェクト (ジェニファー・アーカー)、SPRINT 最速仕事術—あらゆる仕事がうまくいく最も合理的な方法 (ジェイク・ナップ、他)
備考	<u>本教員は、国内外にて(社会)起業をし、社会イノベーションの普及と推進に務めた。一方で、米国ペンシルバニア大学教育大学院博士課程(チーフラーニングオフィサー(CLO)専攻)の実務家研究員として最先端の研究にも従事している。こうした経験を活かしながら、企業団体、学校等の高等教育機関にてラーニング・組織変革の観点から指導を展開している。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	外国語試験対策 I (GB)	(TGB137A)
講義名 (コード)	TGB_外国語試験対策 I_A	(TGB137A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1 学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	福島 ジェニー	時間数 30
成績評価教員	福島 ジェニー	講義期間 春学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	To develop and acquire the ability to use the language in each of the four major skill areas such as reading, listening, speaking and writing as active tools of communication. The class is designed using variety of styles and formats for exposure into wider perspective in understanding the language. Students are assigned individual work in each unit exercises; practice test in reading and listening, oral practice test and writing test.
全体の内容及概要	a) Vocabulary expansion, grammar skills and comprehensive skills development in reading, listening and writing b) To develop strategies on how to prepare themselves and get higher score in different types of examination —
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標/Objectives	授業内容/Lesson contents
1	Students will learn grammatical functions on eight parts of speech and verb tenses; vocabulary and	Part 1: VERB TENSES Unit 1 to Unit 4: Simple Present and Present Progressive
2	Students will learn grammatical functions on verb tenses; vocabulary and phrases; sentence	Part 2: VERB TENSES Unit 5 to Unit 7: Simple Past and Past Progressive
3	To develop students' ability and be accustomed in EIKEN reading test; speed reading and	Reading Practice Test Grade 4; Reading Practice (Reading out loud)
4	Students will learn grammatical functions on verb tenses; vocabulary and phrases; sentence	Part 3: VERB TENSES Unit 8 to Unit 11: Present Perfect and Present Perfect Progressive
5	To develop students' ability and be accustomed in EIKEN listening test; basic sentence construction	Listening Practice Test Grade 4; Writing Practice
6	Students will learn grammatical functions on verb tenses ; usage of for and since ; when and how	Part 4: VERB TENSES Unit 12 to Unit 14: Present Perfect and Past and Past Perfect
7	Students will learn grammatical functions on verb tenses; vocabulary and phrases; sentence	Part 5: VERB TENSES Unit 15 to Unit 17 Past Perfect progressive and different forms
8	To develop students' ability and be accustomed in EIKEN reading and listening test full version;	Practice Test Reading and Listening Grade 3 and Speaking
9	Students will learn grammatical functions on verb tenses; vocabulary and phrases; sentence	Part 6: VERB TENSES Unit 18 to Unit 21 Future Simple
10	Students will learn grammatical functions on verb tenses; vocabulary and phrases; sentence	Part 7 VERB TENSES Unit 22 to Unit 24 Future Progressive and Future Perfect Progressive
11	To develop students' ability and be accustomed in EIKEN full version of Reading and Listening ; Writing	Practice Test Reading and Listening Pre-Grade 2 and Writing
12	Students will learn grammatical functions on modal verbs ; usage of different types of modals;	Part 8 MODAL VERBS 1 Unit 25 to Unit Unit 27
13	Students will learn grammatical functions on modal verbs ; usage of different types of modals;	Part 9 MODAL VERBS 2 Unit 28 to Unit Unit 30
14	Final Examination for the first semester	Final Examination of 2023 First Semester
15	Class Evaluation	Returning of Test Papers and Performance evaluation
16	Students will learn grammatical function on modal verbs ; usage on how to give advice and make	Part 10 MODAL VERBS 3 Unit 31 to Unit 33
17	Students will learn grammatical functions on modal verbs ; usage on how to make requests, offers, ask	Part 11 MODAL VERBS 4 UNIT 34 to Unit 35 (Requests, Offers, Permission, and Invitation
18	To develop students' ability and be accustomed in EIKEN full version of Reading and Listening Test ;	Practice Test Reading and Listening Grade 2 and Speaking
19	Students will learn grammatical functions on different types of Conditionals ; usage on how to give	Part 12: CONDITIONALS Unit 36 to Unit 37 First and Second Conditionals, and Wishes
20	Students will learn grammatical functions on different types of conditionals ; usage on how to give	Part 13: CONDITIONALS Unit 36 to Unit 39 Third and Mixed Type Conditionals, and Wishes
21	To develop students' ability and be accustomed in EIKEN full version of Reading and Listening Test ;	Practice Test Reading and Listening Pre- Grade 1 and Writing
22	Students will learn grammatical functions on different forms of passive — understanding the	Part 14: PASSIVE 1, 2 and 3 Unit 40 to Unit 42
23	Students will learn grammatical functions on assumption — to develop analysis and classify	Part 15: ASSUMPTION Unit 43 to Unit 44
24	To develop students' ability and be accustomed in EIKEN full version of Reading and Listening Test ;	Practice Test Reading and Listening Grade 1 and Speaking
25	Students will learn grammatical functions on reported speech — students will learn how to	Part 16: Reported Speech 1 and 2 Unit 45 to Unit 46
26	Students will learn grammatical functions of reported speech questions. Students will practice and learn	Part 17: Reported Speech Questions 1 and 2 Unit 47 to Unit 48 / Dialogue Practice
27	To develop students' ability and be accustomed in EIKEN full version of Reading and Listening Test ;	Practice Test Reading and Listening Grade 1 and Writing
28	Students will learn grammatical functions of phrasal verbs— Students will learn different phrasal verb	Part 18: Phrasal Verbs Selected grammar topic from the textbook
29	Final Examination in the second semester	Final Examination of 2023 Fsecond Semester
30	Class Evaluation	Evaluation and feedback for the entire year

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Murphy Grammar in Use Intermediate
参考文献・資料等	The specified units description mentioned above may subject to change depending on the progress of the students' ability.
備考	An instructor provides extra materials for practice test purposes and other extra activities for language skills development.

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	社会人総合 I		(TGB139)
講義名 (コード)	社会人総合 I A		(TGB139A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、SPI非言語・言語で高得点を取ること、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	SPIの言語、非言語、履歴書/志望動機の書き方を各30分ずつ行う
授業時間外の学修	授業中、必要があれば指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	中学までの数学の復習	四則計算 1 / 四則計算 2
2		割合の問題 / 代入法の問題
3		表の読み取り問題 / 金銭の問題 1 (損益を求める①)
4		金銭の問題 2 (損益を求める②) / 金銭の問題 3 (精算を求める)
5		金銭の問題 4 (割引きを求める) / 金銭の問題 5 (分割を求める)
6		ハジキ問題 1 (速さを求める) / ハジキ問題 2 (時間を求める)
7		ハジキ問題 3 (距離を求める) / ハジキ問題 4 (応用)
8		食塩水の問題 1 (シオの量を求める) / 食塩水の問題 2 (濃度を求める)
9		塩水の問題 3 (濃度の公式を活用する) / 食塩水の問題 4 (異なる濃度の食塩水を混ぜる)
10		グラフの問題 1 (直線の式) / グラフの問題 2 (放物線の式)
11		グラフの読み取り問題
12		前期のまとめ
13		前期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	1日10分から始め(はじめ)るSPI'2024
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	社会人総合 I		(TGB139)
講義名 (コード)	社会人総合 I B		(TGB139B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、SPI非言語・言語で高得点を取ること、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	SPIの言語、非言語、履歴書/志望動機の書き方を各30分ずつ行う
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	中学までの数学の復習	四則計算 1 / 四則計算 2
2		割合の問題 / 代入法の問題
3		表の読み取り問題 / 金銭の問題 1 (損益を求める①)
4		金銭の問題 2 (損益を求める②) / 金銭の問題 3 (精算を求める)
5		金銭の問題 4 (割引きを求める) / 金銭の問題 5 (分割を求める)
6		ハジキ問題 1 (速さを求める) / ハジキ問題 2 (時間を求める)
7		ハジキ問題 3 (距離を求める) / ハジキ問題 4 (応用)
8		食塩水の問題 1 (シオの量を求める) / 食塩水の問題 2 (濃度を求める)
9		塩水の問題 3 (濃度の公式を活用する) / 食塩水の問題 4 (異なる濃度の食塩水を混ぜる)
10		グラフの問題 1 (直線の式) / グラフの問題 2 (放物線の式)
11		グラフの読み取り問題
12		前期のまとめ
13		前期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	1日10分から始め(はじめ)るSPI'2024
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	MOS対策WORD I		(TGB141)
講義名 (コード)	MOS対策WORD I A		(TGB141A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、SPI非言語・言語で高得点を取ること、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	SPIの言語、非言語、履歴書/志望動機の書き方を各30分づつ行う
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	パソコンの基本機能を学ぶ	パソコンの基本①
2	エクスプローラーの操作を学ぶ	パソコンの基本②
3	移動とコピーを学ぶ	パソコンの基本③
4	ファイルの管理を学ぶ	パソコンの基本④
5	Wordの基本機能を学ぶ	Wordの基本①
6	タッチタイピングを学ぶ	タッチタイピング練習①
7	タッチタイピングをマスターする	タッチタイピング練習②
8	ブラインドタッチを学ぶ	ブラインドタッチ練習①
9	ブラインドタッチをマスターする	ブラインドタッチ練習②
10	文章の入力を学ぶ	Wordを使って、文章を打つ①
11	文章を入力する	Wordを使って、文章を打つ②
12		前期のまとめ
13		前期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	MOS対策WORD I		(TGB141)
講義名 (コード)	MOS対策WORD I B		(TGB141B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、SPI非言語・言語で高得点を取ること、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	SPIの言語、非言語、履歴書/志望動機の書き方を各30分ずつ行う
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	パソコンを起動しましょう。	パソコンの基本①
2	エクスプローラーを操作しましょう。	パソコンの基本②
3	移動とコピーをしましょう。	パソコンの基本③
4	ファイルを管理しましょう。	パソコンの基本④
5	Wordを起動しましょう。	Wordの基本①
6	タッチタイピングをマスターしましょう。	タッチタイピング練習①
7	タッチタイピングをマスターしましょう。	タッチタイピング練習②
8	ブラインドタッチをマスターしましょう。	ブラインドタッチ練習①
9	ブラインドタッチをマスターしましょう。	ブラインドタッチ練習②
10	文章を入力しましょう。	Wordを使って、文章を打つ。
11	文章を入力しましょう。	Wordを使って、文章を打つ。
12		前期のまとめ
13		前期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	MOS対策EXCEL I	(TGB143)	
講義名 (コード)	MOS対策EXCEL I	(TGB143)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	木内恵里子	時間数	30
成績評価教員	木内恵里子	講義期間	春期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は、実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生がビジネスで使用されるデータ管理に必要なICT活用を習得して、MOS Excel 2021/365に合格できるExcelスキルを身に付ける。
全体的内容と概要	ビジネスに必須のMicrosoft Excelに関する操作スキルを身に付け、効果的なデータの集計・編集方法、実践的なワークシートやブックの管理、さらにネットワークドライブの利用ができるようにする。
授業時間外の学修	学習に使用するファイルはFOM出版のサイトからダウンロードできる。授業内でつまづいた部分などは各自復習しておくこと。
履修上の注意事項等	Excelの基本操作から学習するが、普段からPC操作やリボンやタブの使い方に慣れておくこと。尚、授業進度により、適宜内容を変更する場合がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ガイダンス Excel概要が理解できる	学校PCの使い方、WordとExcelの違い（拡張子等）、Excel基本操作、MOS試験の概要。ファイルはMicrosoftTeamsなどで配布。
2	Excelの基本操作およびCloud上のファイルが利用できる	Excelの基本操作（セルの基本操作、簡単な計算式の入力、オートフィル）、MicrosoftTeamsの使い方
3	表やセルの見た目を編集できる	セルの編集と表示形式、セルのスタイル、結合
4	基本的な計算機能を遣うことができる	手入力の計算、基本の関数（SUM、AVERAGE）、スパークライン ※MIN関数、MAX関数、COUNT関数
5	相対参照と絶対参照を使い分けることができる	相対参照・絶対参照
6	比率計算ができる	割合、率、比率の計算 ※構成比と絶対参照
7	表を作成し、計算式と関数の使い分けができる	関数および計算式、表作成の復習
8	Excelの基本のデータベース機能を利用できる	表をテーブルにする、条件付き書式、検索と置換
9	Excelのデータベース機能を利用できる	データの抽出、複数項目の並べ替えと解除
10	Excelのデータベース機能を利用できる	データの抽出、複数項目の並べ替えと解除
11	グラフを使用してデータを可視化できる1	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ
12	グラフを使用してデータを可視化できる2	その他のグラフ
13	これまでの内容が実践できる	総合演習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生のためのかんたんExcel入門（技術評論社）
参考文献・資料等	よくわかる Microsoft Excel 2021 ドリル（FOM出版）
備考	スムーズな操作のために、各自、日本語の教科書などを復習し、よく使われる漢字の読みや日本で使われるビジネス用語を理解しておくことが望ましい。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	イノベーションと経済社会 (SDG s)		TGB145
講義名 (コード)	イノベーションと経済社会 (SDG s)		TGB145
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	横井 博文	時間数	30
成績評価教員	横井 博文	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は関連分野で活躍した講師による講義である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	企業、それに携わるビジネスマンにとって、経済活動は、日々、他との競争である。その中において、いろいろなアイデアや技術開発等は、従来とは違ったものになり、進歩しているといえる。この授業は、経済社会が大きく変わることを、「イノベーション」から考えて、学ぶものである。この授業を通して、イノベーションについて理解し、同時に、経済社会現象を理解するようにする。
全体の内容と概要	この授業では、小売業界をベースにおいて学びながら、そこで見られるイノベーションに学ぶ。最終的に、商業についての知識を理解し、そこで見られる大小のイノベーションを理解する。さらに数回のグループディスカッションを通して、思考・分析・提案ができるようにする。
授業時間外の学修	今回、特に、重要なことは、日々の生活で利用している店舗、いわゆる小売りについて、商品の購入だけでなく、そこにある技術、アイデア、変わっているところを見て、自分で分析することである。
履修上の注意事項等	授業は、受動的な授業ではなく、意見を述べることによるポイント式である。またグループディスカッションも取り入れ、提案やプレゼンをしていく授業である。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	・イノベーションとは何か（OT） ・身近なことから理解する	OT（オリエンテーション）を実施し、まずはイノベーションについて理解する。
2	・イノベーションとその分類を理解する	イノベーションの歴史、定義、分類について理解する。
3	・流通・小売におけるイノベーションを理解する	①流通・小売りに関する理解 ②ITによる流通イノベーションについて理解する。
4	・小売の組織とその変化を理解し、業態変化について理解する。	①チェーンの3形態 ②小売業態の変化 ③小売業態における組織イノベーションを理解する。
5	・小売の販売方法の変化について、ICTによるイノベーションを理解する。	①販売方法の変化 ②通信販売、インターネットによる売買の登場 ③ICTによるイノベーションを理解する。
6	・専門店のいくつかを代表例してIT時代による変化を見てみる。その1	①専門店の分類 ②百貨店 ③これらの業種の変化と組織的イノベーションを理解する。
7	・専門店のいくつかを代表例してIT時代による変化を見てみる。その2	専門店を、①総合店（スーパー） ②スーパーマーケット ③ホームセンターに分け、それぞれの特徴とそこにおけるイノベーションを理解する。
8	・専門店のいくつかを代表例してIT時代による変化を見てみる。その3	専門店を、①ドラッグストア ②コンビニエンスストアに分けて、理解し、それぞれの特徴と、そこにおける変化・イノベーションを理解する。
9	・専門店のいくつかを代表例してIT時代による変化を見てみる。その4	近年、登場した新しい業界、①100円ショップ、②その他を取り上げて、業界や生活変化をとらえて、イノベーションを理解する。
10	・商業集積について理解、そこでのIT化とそれによる様々なイノベーションを理解する。	①商店街の理解と分類、②ショッピングセンター、③新しい時代の商業集積から、業界のイノベーションを理解する。
11	・お金とイノベーションについて、キャッシュレスについて理解する。	①お金の機能、②支払い方法の変化、③キャッシュレス、電子マネー、仮想通貨について理解する。
12	グループ・ディスカッションによるイノベーション研究	クラス内でグループを作り、商品を例にして、事例研究を行う。 ：日本のインスタント麺について、商品の材料、販売方法、用途を考える
13	期末試験前のまとめ・アンケート実施	全体の整理とアンケートを実施する。
14	期末試験	期末試験の実施
15	期末試験のフィードバック	フィードバックを実施する。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし：プリント、レジュメを使用する
参考文献・資料等	<p>必要に応じてその都度、紹介する。</p> <p>参考：平井孝志『ビジュアル ロジカルシンキング』（日本経済新聞出版社 2012.4） 日本商工会議所他編『販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～』（㈱カリアック）</p> <p>その他：購入等はしないが、授業のレジュメ等にて参考した書籍です。</p> <p>玉田俊太他『日本のイノベーションのジレンマ－破壊的イノベーターになるための7つのステップ 第2版』（翔泳社 2020.8）</p> <p>Govindarajan,Vijay、Trimble,Chris/トリンブル,クリス（渡部 典子）『リバース・イノベーション－新興国の名もない企業が世界市場を支配するとき』（ダイヤモンド社2012.9）</p> <p>クレイトン・クリステンセン/著 玉田 俊平太/監修 伊豆原 弓/訳『イノベーションのジレンマ－技術革新が巨大企業を滅ぼすとき－』（翔泳社 2001.7）</p>
備考	本教員はミドル層向けにリーダーシップや組織開発、ダイバーシティ、組織デザインなどの分野で研修を担当。主にオンラインや各地で一日研修やセミナーに登壇し、金融機関やIT企業、人材関連企業など幅広い業種の法人向け研修を実施している。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	イノベーションと経済社会 (SDGs)		TGB145
講義名 (コード)	イノベーションと経済社会 (SDGs)		TGB145
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤頌太郎	時間数	30
成績評価教員	伊藤頌太郎	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義・質疑応答

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	企業、それに携わるビジネスマンにとって、経済活動は、日々、他との競争である。その中において、いろいろなアイデアや技術開発等は、従来とは違ったものになり、進歩しているといえる。この授業は、経済社会が大きく変わることを、「イノベーション」から考えて、学ぶものである。この授業を通して、イノベーションについて理解し、同時に、経済社会現象を理解できるようにする。
全体的内容と概要	この授業では、小売業界をベースにおいて学びながら、そこで見られるイノベーションに学ぶ。最終的に、商業についての知識を理解し、そこで見られる大小のイノベーションを理解する。さらに数回のグループディスカッションを通して、思考・分析・提案ができるようにする。
授業時間外の学修	今回、特に、重要なことは、日々の生活で利用している店舗、いわゆる小売りについて、商品の購入だけでなく、そこにある技術、アイデア、変わっているところを見て、自分で分析することである。
履修上の注意事項等	授業は、受動的な授業ではなく、意見を述べることによるポイント式である。またグループディスカッションも取り入れ、提案やプレゼンをしていく授業である。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	・イノベーションとは何か (OT) ・身近なことから理解する	OT (オリエンテーション) を実施し、まずはイノベーションについて理解する。
2	・イノベーションとその分類を理解する	イノベーションの歴史、定義、分類について理解する。
3	・流通・小売におけるイノベーションを理解する	①流通・小売りに関する理解 ②ITによる流通イノベーションについて理解する。
4	・小売の組織とその変化を理解し、業態変化について理解する。	①チェーンの3形態 ②小売業態の変化 ③小売業態における組織イノベーションを理解する。
5	・小売の販売方法の変化について、ICTによるイノベーションを理解する。	①販売方法の変化 ②通信販売、インターネットによる売上の登場 ③ICTによるイノベーションを理解する。
6	・専門店のいくつかを代表例としてIT時代による変化を見てみる。その1	①専門店の分類 ②百貨店 ③これらの業種の変化と組織的イノベーションを理解する。
7	・専門店のいくつかを代表例としてIT時代による変化を見てみる。その2	専門店を、①総合店 (スーパー) ②スーパーマーケット ③ホームセンターに分け、それぞれの特徴とそこにおけるイノベーションを理解する。
8	・専門店のいくつかを代表例としてIT時代による変化を見てみる。その3	専門店を、①ドラッグストア ②コンビニエンスストアに分けて、理解し、それぞれの特徴と、そこにおける変化・イノベーションを理解する。
9	・専門店のいくつかを代表例としてIT時代による変化を見てみる。その4	近年、登場した新しい業界、①100円ショップ、②その他を取り上げて、業界や生活変化をとらえて、イノベーションを理解する。
10	・商業集積について理解、そこでのIT化とそれによる様々なイノベーションを理解する。	①商店街の理解と分類、②ショッピングセンター、③新しい時代の商業集積から、業界のイノベーションを理解する。
11	・お金とイノベーションについて、キャッシュレスについて理解する。	①お金の機能、②支払い方法の変化、③キャッシュレス、電子マネー、仮想通貨について理解する。
12	グループ・ディスカッションによるイノベーション研究	クラス内でグループを作り、商品を例にして、事例研究を行う。 ：日本のインスタント麺について、商品の材料、販売方法、用途を考える
13	期末試験前のまとめ・アンケート実施	全体の整理とアンケートを実施する。
14	期末試験	期末試験の実施
15	期末試験のフィードバック	フィードバックを実施する。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジユメを使用する
参考文献・資料等	<p>必要に応じてその都度、紹介する。</p> <p>参考：平井孝志『ビジュアル ロジカルシンキング』（日本経済新聞出版社 2012.4） 日本商工会議所他編『販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～』（㈱キャリアック）</p> <p>その他：購入等はしなないで構いませんが、授業のレジユメ等にて参考した書籍です。</p> <p>玉田俊太他『日本のイノベーションのジレンマ―破壊的イノベーターになるための7つのステップ 第2版』（翔泳社 2020.8）</p> <p>Govindarajan, Vijay, Trimble, Chris / トリンブル, クリス（渡部 典子）『リバース・イノベーション―新興国の名もない企業が世界市場を支配するとき』（ダイヤモンド社2012.9）</p> <p>クレイトン・クリステンセン / 著 玉田 俊平 / 監修 伊豆原 弓 / 訳『イノベーションのジレンマ―技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』（翔泳社 2001.7）</p>
備考	・本教員は、外資系企業にて、営業や人事その他の業務を歴任した。その経験を活かして、企業コンサルタント、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザイン I	(TGB147)	
講義名 (コード)	キャリアデザイン IA	(TGB147A)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自己のライフキャリアを見つめなおし、多様なキャリア形成の基礎を養うこと。自己のキャリア目標を詳細に設定し、記録し、振り返りできるようになること。
全体の内容と概要	専門学校へ進学した意味や目的を再確認し、必要なキャリア形成の知識・スキルを自ら調べてアウトプットできるようにする。
授業時間外の学修	不明点は授業時間外に学習者が調べ授業時間内に質問することとする。
履修上の注意事項等	学習者が自ら調べ、自分の意見をアウトプットさせて参加者のフィードバックを積極的に受けるスタイルとする。教員は学習者の発言を促し、授業全体をファシリテートすること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	キャリアデザイン授業の目的理解と学習記録の付け方理解	学び録は学習進捗と成果を記録するツールで、学生の学習履歴を追跡・分析し、目標達成に向けた計画立てを支援します。
2	目標を設定する意味と実践	WOOPを活用した目標設定で理想を思い描き、想定される障害を洗い出し、具体的な計画（考えられる障害に対する対策）を立案します。
3	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】目標設定と自己分析を学び、心・技・体・生活のバランスを分析し、自己成長とスキル定着に役立てる。
4	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】具体的な行動計画を立て実践方法を学び、目標達成のためのスキルを向上させる。
5	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】行動をルーティン化し、スキル定着のために定期的に振り返りを行い、自分の成長を確認する方法を身につける。
6	細分化した目標設定を具体的な計画へと具体化する	【目標設定フレームワーク】オープンウィンドウ66を活用し、学びの目的・目標・学習方法を具体化して計画する。
7	ラーニングスキル講座のアウトプットをする。	I(U)LPワークショップ①
8	ラーニングスキル講座のアウトプットをする。	I(U)LPワークショップ②
9	自己を理解することで、自分の特性を知る	キャリアデザイン①タイプ論（MBTI）に基づいた自己分析ツールを活用し、自己の性格的特徴を知る。
10	自己を理解することで、自分の特性を知る	キャリアデザイン②就職活動で使用するスーツ着用のポイントを知る。「メラビアン法則」に基づき視覚情報の重要性を知る。
11	仕事を理解する	キャリアデザイン③「マイナビ」「企業ホームページ」を活用して、仕事理解を深める。求人を理解し、仕事選びの基準を考える。
12	外国人雇用と日本社会を学ぶ	キャリアデザイン④在留資格・技術・人文知識・国際業務と特定技能1号について理解する。自身の進路の選択肢を広げる。
13	インターンシップとは何か理解する	キャリアデザイン⑤インターンシップとは何か。インターンシップへの参加方法、インターンシップに参加した場合のメリットを理解する。
14		期末試験
15		フィードバック/追試

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の回数と順番は、ラーニングスキルの講義日程と調整するため、変動する可能性があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名(コード)	マクロ経済学		(TGB155)
講義名(コード)	マクロ経済学A		(TGB155A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	横井 博文	時間数	30時間
成績評価教員	横井 博文	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、実務者教員による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	①経済学(けいざいがく)を身近(みじか)なことから考え(かんがえ)、社会人(しゃかいじん)/進学(しんがく)いずれにも必要(ひつよう)な知識(ちしき)を体系的(たいけいてき)に習得(しゅうとく)する Learn necessary knowledge about economics by thinking about the study as a daily-life issue. ②経済(けいざい)の動き(うごき)がビジネスや自分(じぶん)の生活(せいかつ)にどう影響(えいきょう)するかを理解(りかい)する Understand how economy affects your business and life.
全体の内容 と概要	毎回(まいかい)双方向(そうほうこう)の質疑(しつぎ)応答(おうとう)と生活(せいかつ)の中(なか)での具体例(ぐたいれい)を挙げ(あげ)ながら進め(すす)める Conduct each class through mutual Q&A, raising daily-life example.
授業時間 外の学修	アルバイトや生活(せいかつ)の中(なか)で、経済(けいざい)の問題(もんだい)を常に(つねに)考え(かんが)え Always think about economics issues in your side-business and daily life.
履修上 の注意事項等	分からないこと(わからぬこと)は完全(かんぜん)に分か(わか)るまで質問(しつもん)する Should ask questions until you understand them completely enough to answer the similar questions raised by others.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の内容（ぜんきのないよう）を理解する Understand what you learned in 1st term	前期の復習。Review what you have learned in 1st termマクロ経済とミクロ経済の違いを理解する。Understand the difference between macro/micro economics.
2	経済的合理性（けいざいてきごうりせい）を理解する Understand economical reasonability	経済的(けいざいてき)判断(はんだん)とは何か？ What is an economical judgement?
3	グローバル時代の経済を理解する Understand economy in the global ear	一国の経済が他国に与える影響（えいきょう） The effect of an economy of a company on other country
4	消費と生産の関係(しょうひとせんさんのかんけい)を理解する Understand the relationship between consumption/production	消費が増えれば生産も増えるか？ Is consumption co-related with production?
5	イノベーションとは何か？ What is innovation?	イノベーションは発明（はつめい）ではない Innovation is not necessarily an invention
6	経済ニュース用語を理解する Understand economy-related terminology	GDP, 金融(きんゆう)政策(せいさく)Financial policy、金利(きんり)interest
7	GDPを理解する Understand GDP	GDPは何を表すか？ What does GDP represent?
8	国債と社債(こくさいとしゃさい)を理解する	借金（しゃっきん）とは何か？ What is a debt?
9	資産・負債・資本（しさん・ふさい・しほん）の関係を理解する Understand the relation among asset, liability, and capital	資産・負債・資本とは皆さんにとって何か？ What are asset, liability, and capital for your lives?
10	経済史(けいざいし)を学ぶ Leran economic history	経済の歴史を学ぶのはなぜ必要か？ Why do we have to learn economic history?
11	為替(かわせ)市場(しじょう)を理解する Understand foreign currency market	円高・円安(えんだか・えんやす)はどうやって起こるか？ How is ¥ appreciation/depreciation developed?
12	インフレとデフレを理解する Understand inflation/deflation	インフレ・デフレはなぜ起きるか？ Why does inflation/deflation occur?
13	今後の世界経済を予測（よそく）する Forecast global economy in the future	今後の世界経済はどうなるか？ What will be a world economy in the future?
14	後期試験（こうきしけん）2nd term exam.	
15	後期試験の講評（こうひょう）Remarks on ↑	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	経済学見るだけノート、2030:世界の大変化を「水平思考」で展望する
参考文献・資料等	特になし
備考	『2030:世界の大変化を「水平思考」で展望する』の中から1つトピックを選び、チームで発表する（10分+Q&A（5分）） <u>本教員はミドル層向けにリーダーシップや組織開発、ダイバーシティ、組織デザインなどの分野で研修を担当。主にオンラインや各地で一日研修やセミナーに登壇し、金融機関やIT企業、人材関連企業など幅広い業種の法人向け研修を実施している。</u>

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ミクロ経済学		(TGB156)
講義名 (コード)	ミクロ経済学A		(TGB156A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	横井 博文	時間数	30時間
成績評価教員	横井 博文	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、実務者教員による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	経済学(けいざいがく)を身近(みじか)なことから考え(かんがえ)、社会人(しゃかいじん)/進学(しんがく)いずれにも必要(ひつよう)な知識(ちしき)を体系的(たいけいてき)に習得(しゅうとく)する Learn necessary knowledge about economics by thinking about the study as a daily-life issue.
全体の内容 と概要	毎回(まいかい)双方向(そうほうこう)の質疑(しつぎ)応答(おうとう)と生活(せいかつ)の中(なか)での具体例(ぐたいれい)を挙げ(あげ)ながら進め(すす)める Conduct each class through mutual Q&A, raising daily-life example.
授業時間 外の学修	アルバイトや生活(せいかつ)の中(なか)で、経済(けいざい)の問題(もんだい)を常に(つねに)考え(かんが)え Always think about economics issues in your side-business and daily life.
履修上 の注意事項等	分からないことは完全(かんぜん)に分かる(わかる)まで質問(しつもん)する Should ask questions until you understand them completely enough to answer the similar questions raised by others.

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション この授業の意義(いぎ)/進め方(すすめかた)を理解(りかい)する Orientation: Understand meaning/procedure of this class	経済学(けいざいがく)とは何か?我々の生活にどう関(かか)わっているか? What is economics?How is our life effected by economics?
2	市場(しじょう)とは何か?を理解する Understand what a market is.	金融市場、実物市場、市場を形成するもの Financial/real market, what constitute a market?
3	市場価格(しじょうかかく)はどうやって決まるのか?を理解する How is a market price decided?	需要と供給(じゅようときょうきゅう)、生産者と消費者(せいさんしゃとしょうひしゃ) Demand and supply, producer and consumer
4	独占禁止法(どくせんきんしほう)の意義(いぎ)と範囲(はんい)を理解する① Understand meaning and scope of anti-monopoly law	market machanismが成り立つ/成り立たない場合 Cases where market mechanism can govenrn or not
5	同Ditto②	値上げ(ねあげ)/値下げはなぜ起こるか? Why does price hike/down occur?
6	同Ditto③	価格と利益(かかくとりえき)、価格は誰が決めるか? Price and profit. Who decides a price?
7	市場の構造(こうぞう)を理解する Understand market mechanism①	企業が値下げしても売り上げを増やすのはなぜか? Why does a company want to increase sales revenue by decreasing price?
8	市場の構造(こうぞう)を理解する Understand market mechanism②	売れている商品は増産(ぞうさん)すべきか? Should a company increase production of well-selling products?
9	市場の構造(こうぞう)を理解する Understand market mechanism③	企業の新製品開発(しんせいひんかいはつ)はなぜ必要か? Why is it necessary for a company to develop a new product?
10	IT 業界はなぜ儲かる(もうかる)か?を理解する	ヒトhuman resources、モノasset、カネmoney、情報(じょうほう) information
11	経済のインセンティブの構造を理解する Understand economic incentive	なぜ売るか? なぜ買うか? Why does a compay sell/Why does a company buy?
12	埋没費用(まいぼつひよう)を理解する Understand "sunk cost"	考えても仕方が無い終わった費用(ひよう) Costs which were paid and are non-returnable
13	比較優位(ひかくゆうい)を理解する Understand comparative superiority	得意(とくい)なものの生産・販売(せいさんはんばい)に特化(とっか)する
14	前期のまとめ Summary of the content in 1st term	
15	前期試験(ぜんきしけん) 1st term exam	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	経済学見るだけノート、2030:世界の大変化を「水平思考」で展望する
参考文献・資料等	特になし
備考	『2030:世界の大変化を「水平思考」で展望する』の中から1つトピックを選び、チームで発表する(10分+Q&A(5分)) <u>本教員はミドル層向けにリーダーシップや組織開発、ダイバーシティ、組織デザインなどの分野で研修を担当。主にオンラインや各地で一日研修やセミナーに登壇し、金融機関やIT企業、人材関連企業など幅広い業種の法人向け研修を実施している。</u>

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	簿記・会計論 I		(TGB159)
講義名 (コード)	簿記・会計論 I A		(TGB159A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島 理士	時間数	30時間
成績評価教員	中島 理士	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日商簿記3級の受験レベルに到達。ビジネスに役立つアカウンティング知識を身に着ける。
全体の内容と概要	<p>日商簿記3級の検定試験に合格することを目指します。</p> <p>会計帳簿に記録するためのルール（仕訳と勘定記入）からはじまり、商品の仕入や販売だけではなく土地や建物を買ったときなど、様々な取引の処理について学習します。</p> <p>また会計記録の一覧表である試算表の種類や作成方法、さらに決算を通じて財務諸表(貸借対照表・損益計算書)を作成するまでの簿記一巡の流れについても学習します。</p> <p>会社の成績表である財務諸表のしくみを知ること、会社がお金を儲けることの意味やその必要性が分かるようになります。また、会計の知識を深めることで、経営分析の基礎を身につけます。</p> <p>I aim to pass the Nissho Bookkeeping Level 3 certification exam. Starting with the rules for recording in accounting books (journal entries and ledger posting), I will learn how to process various transactions, not only for purchasing and selling goods but also for cases such as buying land and buildings. Additionally, I will study different types of trial balances, their preparation methods, and the complete bookkeeping cycle, which includes creating financial statements (balance sheet and income statement) through the closing process. By understanding the structure of financial statements, which serve as a company's report card, I will grasp the meaning and necessity of making a profit. Furthermore,</p>
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	講義は日本語のみ 電卓（12桁以上）・教科書・筆記用具は必ず持参の上受講すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	4/15 財務諸表の基礎理解	簿記一巡 簿記とは何か？
2	4/22 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L) 仕訳方法の学習および演習
3	4/29 (祝) 課題	簿記仕訳力養成課題 仕訳問題(1)
4	5/13 日常の取引の基礎	小口現金・クレジット売掛金・手形取引・電子記録債権・債務 ・さまざまな帳簿の関係
5	5/20 日常の取引の基礎	貸付金・借入金、利息の計算等・有形固定資産(取得・償借)、未収入金 未払金仮払・仮受、給料、立替金・預り金等
6	5/27 日常の取引の基礎	訂正仕訳・試算表・有形固定資産・減価償却(決算)
7	6/3 日常の取引の基礎	決算・精算表・決算整理Ⅰ～Ⅵ
8	6/10 決算の基礎理解	決算・精算表・決算整理Ⅰ～Ⅵ
9	6/17 決算の基礎理解	決算・精算表・決算整理Ⅰ～Ⅵ
10	6/24 決算の基礎理解	財務諸表・精算表
11	7/1 株式会社	株式会社と個人商店の違い 税金(法人税・消費税他)
12	7/8 証ひょうと伝票	証ひょうと伝票(三伝票)
13	7/25 前期末試験対策	前期末試験に出題されそうなテーマを解説します。
14	前期末試験	
15	追試	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商簿記3級合格テキスト・日商簿記3級トレーニング(TAC出版)
参考文献・資料等	日商簿記2級合格テキスト商業簿記・工業簿記(TAC出版)・経営分析の基本(日本経済新聞出版社)その他、簿記・会計に関する資料。
備考	簿記・会計論Ⅱと同じ内容。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	簿記・会計論 I		(TGB159)
講義名 (コード)	簿記・会計論 I B		(TGB159B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島 理士	時間数	30時間
成績評価教員	中島 理士	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日商簿記3級の受験レベルに到達。ビジネスに役立つアカウンティング知識を身に着ける。
全体の内容と概要	<p>日商簿記3級の検定試験に合格することを目指します。</p> <p>会計帳簿に記録するためのルール（仕訳と勘定記入）からはじまり、商品の仕入や販売だけではなく土地や建物を買ったときなど、様々な取引の処理について学習します。</p> <p>また会計記録の一覧表である試算表の種類や作成方法、さらに決算を通じて財務諸表(貸借対照表・損益計算書)を作成するまでの簿記一巡の流れについても学習します。</p> <p>会社の成績表である財務諸表のしくみを知ること、会社がお金を儲けることの意味やその必要性が分かるようになります。また、会計の知識を深めることで、経営分析の基礎を身につけます。</p> <p>I aim to pass the Nissho Bookkeeping Level 3 certification exam. Starting with the rules for recording in accounting books (journal entries and ledger posting), I will learn how to process various transactions, not only for purchasing and selling goods but also for cases such as buying land and buildings. Additionally, I will study different types of trial balances, their preparation methods, and the complete bookkeeping cycle, which includes creating financial statements (balance sheet and income statement) through the closing process. By understanding the structure of financial statements, which serve as a company's report card, I will grasp the meaning and necessity of making a profit. Furthermore,</p>
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	講義は日本語のみ 電卓（12桁以上）・教科書・筆記用具は必ず持参の上受講すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	4/15 財務諸表の基礎理解	簿記一巡 簿記とは何か?
2	4/22 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L) 仕訳方法の学習および演習
3	4/29 (祝) 課題	簿記仕訳力養成課題 仕訳問題(1)
4	5/13 日常の取引の基礎	小口現金・クレジット売掛金・手形取引・電子記録債権・債務 ・さまざまな帳簿の関係
5	5/20 日常の取引の基礎	貸付金・借入金、利息の計算等・有形固定資産(取得・賃借)、未収入金 未払金仮払・仮受、給料、立替金・預り金等
6	5/27 日常の取引の基礎	訂正仕訳・試算表・有形固定資産・減価償却(決算)
7	6/3 日常の取引の基礎	決算・精算表・決算整理 I～VI
8	6/10 決算の基礎理解	決算・精算表・決算整理 I～VI
9	6/17 決算の基礎理解	決算・精算表・決算整理 I～VI
10	6/24 決算の基礎理解	財務諸表・精算表
11	7/1 株式会社	株式会社と個人商店の違い 税金(法人税・消費税他)
12	7/8 証ひょうと伝票	証ひょうと伝票(三伝票)
13	7/25 前期末試験対策	前期末試験に出題されそうなテーマを解説します。
14	前期末試験	
15	追試	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商簿記3級合格テキスト・日商簿記3級トレーニング(TAC出版)
参考文献・資料等	日商簿記2級合格テキスト商業簿記・工業簿記(TAC出版)・経営分析の基本(日本経済新聞出版社)その他、簿記・会計に関する資料。
備考	簿記・会計論Ⅱと同じ内容。

1. 本授業科目の基本情報			
講義名 (コード)	TGB167	情報リテラシー I	
科目名 (コード)	TGB167	情報リテラシー I	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位30
授業担当者	浅沼 涉	時間数	
成績評価教員	浅沼 涉	講義期間	春期
実務者教員		履修区分	選択必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	本学の教育理念に基づきキャリアを自ら形成・発展させ、企業や実社会の様々な分野で即戦力として活躍できることを目的として、ICT(情報通信技術)の基本スキルを習得する。
全体の内容と概要	職業人および職業人となる誰もが備えておくべき、ITに関する共通的な基礎知識を測る国家試験であるITパスポート資格取得に必要な知識を学ぶ。
授業時間外の学修	ITパスポートの過去問や類題を数多く解くこと。
履修上の注意事項等	MOS対策 (WORD, EXCEL) の授業との関連性を意識して取り組むこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ハードウェアと基礎理論について理解する	情報に関する理論、コンピュータの構成とCPU、主記憶と補助記憶
2	ハードウェアと基礎理論について理解する	半導体メモリ、入出力装置、入出力インタフェース
3	ハードウェアと基礎理論について理解する	AI、確率と統計、基数変換
4	ソフトウェアについて理解する	ソフトウェア、ファイル管理、ファイルのバックアップ
5	ソフトウェアについて理解する	表計算（相対参照と絶対参照）、表計算（関数）、表計算（関数の応用）
6	ソフトウェアについて理解する	ユーザインタフェース、マルチメディア
7	システム構成について理解する	コンピュータの形態、システム構成、システムの信頼性
8	システム構成について理解する	システムの評価、IOTシステムと組み込みシステム、ソリューションビジネスとシステム活用促進
9	ネットワークについて理解する	ネットワークの構成、無線LAN、通信プロトコル
10	ネットワークについて理解する	インターネットの仕組み、通信サービス、Webページ、電子メール
11	セキュリティについて理解する	情報資産と脅威、サイバー攻撃、情報セキュリティマネジメント
12	セキュリティについて理解する	リスクマネジメント、利用者認証、ネットワークセキュリティ
13	セキュリティについて理解する	暗号化技術、デジタル署名と認証局
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	表現研究 I		(TGB169)
講義名 (コード)	表現研究 I A		(TGB169A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTに合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的・ゴールを確認する。	4/15 オリエンテーション 教科書の使い方 自己紹介
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	4/22 必修パターン N2 基礎編 1～2 どんなときどう使う日本語表現文型500 課題配布
3		4/29 演習問題
4	話のポイントや概要が理解できるようになる。	5/13 必修パターンN2聴解 基礎編 3～4 どんなときどう使う日本語表現文型500 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	5/20 必修パターン N2聴解 基礎編 5～6 どんなときどう使う日本語表現文型500
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	5/27 必修パターンN2聴解 基礎編 7 どんなときどう使う日本語表現文型500
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	6/3 必修パターンN2聴解 課題理解 1～3 どんなときどう使う日本語表現文型500
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	6/10 必修パターンN2聴解 課題理解 4～6 どんなときどう使う日本語表現文型500
9	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	6/17 必修パターンN2聴解 課題理解 7～10 どんなときどう使う日本語表現文型500
10		6/24 JLPT模試
11		7/1 JLPT模試 7/7JLPT
12	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	7/8 必修パターンN2聴解 課題理解 11～14 どんなときどう使う日本語表現文型500 課題配布
13	質問に対する的確な答えが言える。	7/15 演習問題（海の日）
14	期末試験	7/22 学期試験
15	追試・フィードバック	7/29 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターン聴解 N2 どんなときどう使う日本語表現文型500
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	表現研究 I		(TGB169)
講義名 (コード)	表現研究 I B		(TGB169B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	個の授業の目的、ゴールを確認する。	4/17 自己紹介、オリエンテーション、聴解N2 総まとめ文法N2
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	4/24 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2 課題配布
3		5/1 演習問題
4	話のポイントや概要が理解できるようになる。	5/8総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法の理解を深める。	5/15総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2 課題配布？
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	5/22総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2 健康診断？
7	N2レベルの文字・語彙・文法の理解を深める。	5/29総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	6/5総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
9	N2レベルの文字・語彙・文法の理解を深める。	6/12総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
10	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	6/19 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
11		6/25 JLPT模試
12		7/3 JLPT模試 7・7JLPT
13	質問に対する的確な答えを成文で言える。	7/10総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
14	期末試験	7/17学期試験
15	追試・フィードバック	7/24 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	総まとめ 文法N2 総まとめ聴解 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	文書理解 I	(TGB171)	
講義名 (コード)	文書理解 I A	(TGB171A)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	竹内通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内通子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	読解の基礎を身に付ける	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標) 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level 1 ウォームアップ①
2	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ②
3		演習問題
4	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ③
5	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ④
6	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ⑤
7	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ⑥
8	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Leve 2 2 練習問題 1 日目
9	語彙からば内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 2 日目
10	JLPTN2の問題形式に慣れる	JLPT模試 N2 読解&解説
11	JLPTN2の問題形式に慣れる	JLPT模試 N2 読解&解説
12	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 3 日目
13	語彙・グラフでの内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 4 日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	文書理解 I	(TGB171)	
講義名 (コード)	文書理解 I B	(TGB171B)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	樋谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	樋谷 智子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 1課 総まとめ語彙N2 第1週2日目
2	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 2課 総まとめ語彙N2 第1週4日目
3	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 4課 課題 総まとめ語彙N2 第1週6日目 課題
4	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 5課 総まとめ語彙N2 2週2日目
5	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 6課 総まとめ語彙N2 第2週4日目
6	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 7課 総まとめ語彙N2 第2週6日目
7	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 8課 総まとめ語彙N2 第3週2日目
8	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 9課 総まとめ語彙N2 第3週4日目
9	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 10課 総まとめ語彙N2 第3週6日目
10	漢字の習得 演習問題	どんどんつながる漢字練習帳 11課 JLPT模試
11	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 12課 総まとめ語彙N2 第4週3日目
12	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 13課 総まとめ語彙N2 第4週5日目
13	前期の内容の理解と定着	前期のまとめと復習
14	期末試験	学期試験 漢字
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、 総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	異文化コミュニケーション I		(TGB173)
講義名 (コード)	異文化コミュニケーション I A		(TGB173A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	異文化理解を深め、文化背景の異なる人と一緒に働き、学び、生活するために必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。
全体的内容と概要	日本語の表現や文化的な背景について学び、実践的なコミュニケーション能力を高めるために、講義、ペアワーク、グループディスカッション、発表などの活動を組み合わせる。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるための学習が必須である。
履修上の注意事項等	配布したプリントはファイルしておくこと。 自身の考えを他者に伝え、聞くために積極的に授業に参加する姿勢が必要である。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業の内容・目的を理解することができる	ガイダンス（授業目標・年間授業スケジュール） 目標設定
2	身近な題材を理解し話し合うことができる。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ1 内容把握・発表 漢字マスター N2
3	自分の考えや意見を他者に伝える力を養う。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ2 内容把握・意見をまとめる 漢字マスターN2
4	身近な題材から自分の母国を比較して考えることができる。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ3 内容把握・発表 漢字マスターN2
5	自分の母国を通して自分と言う人間について他者に説明する。	時事（ニュースなど） 内容把握 漢字マスターN2
6	日本の問題について多様な観点から話し合うことができる。	時事（ニュースなど） 内容把握 漢字マスターN2
7	一つの問題について多様な観点で検討し自分の意見をまとめる。	時事（ニュースなど） 発表 漢字マスターN2
8	一つのテーマから未来について考える力を養う。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ4 内容把握 漢字マスターN2
9	自分の意見や考えを伝えることで自分のアピールを行う。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ4 発表 漢字マスターN2
10	自分の意見や考えを伝えることで自分のアピールを行う。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ5 内容把握 漢字マスターN2
11	テーマを把握して適切な回答をする	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ5 発表 漢字マスターN2
12	力を身につける。	時事（ニュースなど） 内容把握・意見交換 漢字マスターN2
13	前期の授業内容をふりかえる	前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日本語学習者のための 読解厳選テーマ10 中級 漢字マスターN2
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	異文化コミュニケーション I		(TGB173)
講義名 (コード)	異文化コミュニケーション I B		(TGB173B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	竹内通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内通子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の読解を中心に学ぶ。またテーマに関する発表を行う。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	読解の基礎を身に付ける	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標) 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level 1 ウォームアップ①
2	読解の基礎を身に付ける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1ウォームアップ②
3		演習問題
4	読解の基礎を身に付ける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ③
5	読解の基礎を身に付ける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1ウォームアップ④
6	読解の基礎を身に付ける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ⑤
7	読解の基礎を身に付ける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ⑥
8	語彙から内容理解できる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Leve 2 2 練習問題 1 日目
9	語彙からば内容理解できる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 2 日目
10	JLPTN2の問題形式に慣れる	JLPT模試 N2 読解&解説
11	JLPTN2の問題形式に慣れる	JLPT模試 N2 読解&解説
12	語彙から内容理解できる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 3 日目
13	語彙・グラフでの内容理解できる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 4 日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語 I		(TGB175)
講義名 (コード)	ビジネス日本語 I A		(TGB175A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	伊東 かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東 かつみ	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。漢字の意味把握と書き換えが瞬時にできるレベルにする
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	対義語、副詞	オリエンテーション、自己紹介 第1章、人間 1課 対義語、2課：対義語
2	語形成	1課；語形成 副詞；～+否定文、2課：語形成、 副詞
3	感情の表現と心の動きを一致させ、理解する	3課；感情、行動、漢字の読み方、語形成、連語、副詞
4	オノマトペの視覚、感覚的の理解	実力養成編5章；オノマトペ；動画、グループワーク
5	オノマトペの視覚、感覚的の理解	実力養成編5章；オノマトペ、；動画、グループワーク
6	日本語の体の言葉の感覚を養う	実力養成編6章； 1課 体を使った慣用表現：グループワーク；N2問題練習
7	日本語の体の言葉の感覚を養う	2課：慣用表現、動画、気を使った言葉の練習 N2 練習問題
8	日本語の体の言葉の感覚を養う	2課：慣用表現、動画、 練習問題、N2 練習問題
9	複合動詞	実力養成編7章；複合動詞 ペアワーク、N2 問題練習
10	派生語	2課；前につく言葉の練習、N2 練習問題
11	派生語	3課：後ろにつく言葉、漢字の読み方、グループ対抗
12	名詞化と連語	4課；形容詞、動詞の名詞化
13		練習問題、試験の説明
14	前期試験	試験
15	試験の解説	試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスターの語彙N2
参考文献・資料等	動画、ppt
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語 I		(TGB175)
講義名 (コード)	ビジネス日本語 I B		(TGB175B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	樋谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	樋谷 智子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 1課 総まとめ語彙N2 第1週1日目
2	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 2課 総まとめ語彙N2 第1週3日目
3	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 3課課題 総まとめ語彙N2 第1週5日目 課題
4	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 課題FB 総まとめ語彙N2 課題FB 第2週1日目
5	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 5課 総まとめ語彙N2 第2週3日目
6	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 6課 総まとめ語彙N2 第2週5日目
7	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 7課 総まとめ語彙N2 第3週1日目
8	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 8課 総まとめ語彙N2 第3週3日目
9	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 9課 総まとめ語彙N2 第3週5日目
10	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 10課 総まとめ語彙N2 第4週1日目
11	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 11課 総まとめ語彙N2 第4週2日目
12	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 12課 総まとめ語彙N2 第4週4日目
13	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 13課 総まとめ語彙N2 第4週6日目
14	期末テスト	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級 総まとめ語彙 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	経営戦略 I		(TGB113)
講義名 (コード)	経営戦略 I		(TGB113)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である口	授業形態	講義/ディスカッション

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	企業を経営するための様々な戦略の概要を理解する。 特に企業の様々な関係者とどのように関わることかを考える。
全体的内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 40%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 30%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション：戦略とは何かを理解	経営とコミュニケーションの関係を捉える
2	経営戦略の基本概念の理解	ミッション・ビジョン・バリューの意味と活用
3	外部環境分析（PEST／5フォース）の理解	マクロ・業界環境が企業に与える影響とは
4	内部環境分析（VRIO／経営資源）の理解	自社の強み・弱みを見極める視点
5	SWOT分析と戦略策定の理解	総合的に分析して戦略の方向性を定める
6	競争戦略と差別化の理解	ポーターの3類型で競争優位を理解する
7	成長戦略と多角化の理解	アンゾフのマトリクスと実践例の分析
8	グローバル戦略とローカル適応の理解	海外展開と地域対応のバランスを考える
9	コミュニケーション戦略の基本概念の理解	伝える力と信頼構築の重要性を学ぶ
10	ターゲティングとパーソナライズ戦略の理解	顧客ごとの最適なメッセージとは
11	ステークホルダーとの関係の理解	社内外の利害関係者との信頼構築
12	ブランド価値と戦略的メッセージングの理解	一貫した発信とブランド強化の方法
13	戦略の統合と全体設計の理解	経営戦略とコミュニケーション戦略の接点
14	前期まとめと振り返り	学びの再確認と実社会への応用ヒント
15	テスト・フィードバック	前期内容の理解度を測り今後へつなげる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する。口
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名(コード)	グローバルビジネス環境論 I		(TGB117)
講義名(コード)	TGB_グローバルビジネス環境論 I _A		(TGB117A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者		時間数	30
成績評価教員	小川 一幸	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	世界の経済社会現象を理解し、自分の考えをまとめると同時に、他者の考えを受容し、比較・分析できるようにする。相手に自分の意見を伝える。
全体の内容と概要	マーケティングの基本知識と日本のGBの現状を把握し、学生の出身国とのビジネス環境を理解する。
授業時間外の学修	学生が日本社会で体験した事象を、授業に反映し理解を深める。
履修上の注意事項等	1週間前に指定した学生は、GBの事例を授業冒頭で、プレゼンする。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	知識(期末試験点)に、授業内の課題、GB事例発表内容と発表者に対するコメントも加味する。		
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	GBビジネスとマーケティングの関わりを理解する。	・授業の進め方 ・マーケティングの基礎知識1「マーケティングの意味」
2	GBビジネスと商品企画から販売までのプロセスを理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識2「マーケティングの意味」
3	GBビジネスとマーケティングの歴史を理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識3「マーケティングの歴史」
4	GBビジネスの現状と市場把握を理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識4「マーケターの仕事～市場把握～」
5	GBビジネスの商品の現状と商品開発を理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識5「マーケターの仕事～商品開発～」
6	GBビジネスの現状把握と市場開発を理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識6「マーケターの仕事～市場開発～」
7	GBビジネスと販売後のマーケティングの仕事を理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識7「マーケターの仕事～販売後の仕事」
8	セリングとマーケティングの違いを理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識8「セリングとマーケティング」
9	GBビジネスの市場調査の方法を理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識9「市場調査」
10	シーズとニーズの違いを理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識10「シーズとニーズ」
11	GBビジネスのデータ収集の方法を理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識11「データ収集～顧客分析・ラ」
12	GBビジネスとターゲット設定方法の理解する。	・「GB事例発表」(出席番号順2名)・事例発表内容に対する、講師の解説 ・マーケティングの基礎知識12「ターゲット設定・競合との差別」
13	GBビジネス 「ケーススタディ1-1」	・企画書作成 1-1「学生出身国の商品を日本市場で販売」
14	前期試験	前期試験
15	GBビジネス 「ケーススタディ1-2」	・企画書作成 1-2「学生出身国の商品を日本市場で販売」

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	オリジナルプリント教材
参考文献・資料等	新刊のマーケティング関係の参考書から抜粋する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Entrepreneur概論 I		(TGB121)
講義名 (コード)	Entrepreneur概論 I		(TGB121)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	起業が身近な日本社会で、社会に対して広く深い視点を持つことの大切さを理解する。
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 50%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 20%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	アントレプレナーシップを学ぶ 重要性和楽しみ①	アントレプレナーシップの現状
2	アントレプレナーシップを学ぶ 重要性和楽しみ②	アントレプレナーシップ教育の役割
3	新しい事業機会を見つけよう①	事業機会のタイミング
4	新しい事業機会を見つけよう②	事業機会の類型
5	事業機会を評価してみよう①	起業プロセスと機会追及の意思決定
6	事業機会を評価してみよう②	顧客はだれなのか？
7	アイデアを育ててみよう①	アイデアを育てることの意味
8	アイデアを育ててみよう②	アイデアの役割
9	収益の仕組みを考えよう①	収益と費用の論理
10	収益の仕組みを考えよう②	持続可能な成長エンジン
11	どこで買ってもらおうのか①	モノと目的
12	どこで買ってもらおうのか②	売れない理由・普及しない理由
13	あなたの商品やサービスが選ば れる理由を考えよう①	そのサービスを求めているのは誰なのか
14	あなたの商品やサービスが選ば れる理由を考えよう②	アントレプレナーの発想
15	テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	忽那 憲治, 長谷川 博和, 高橋 徳行, 五十嵐 伸吾, 山田 仁一郎 (2022) 『アントレプレナーシップ入門』 (有斐閣)
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	イノベーションと経済社会 (SDGs)	(TGB145)
講義名 (コード)	イノベーションと経済社会 (SDGs)	(TGB145)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数 30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	SDGsの16の目標に対して、企業や団体がどのような取り組みをしているのか、主体的に調べて考える。
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 40%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 30%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション・外国人の日本での生活を考える	授業の進め方を理解しつつ、異文化共生や生活課題を共有。
2	食と飢餓を考える	食品ロスや飢餓の現状を知り、持続可能な食料供給のあり方を考える。
3	水と衛生を考える	清潔な水のアクセスや災害・衛生課題をグローバルに考える。
4	教育の不平等を考える	教育機会・格差・留学生支援などを比較し、多様な教育を考える。
5	働き方と貧困を考える	非正規雇用や外国人労働の問題を通じて、仕事と貧困を考察。
6	環境とエネルギーを考える	再生可能エネルギーや気候変動対策とそのイノベーションを考える。
7	サステナブルなまちづくりを考える	防災、交通、空き家など地域課題と生活の質を考える。
8	消費とエシカル商品を考える	フェアトレードやサステナブルな購買行動の社会的影響を考える。
9	ファッションと社会課題を考える	労働搾取、衣類廃棄、アップサイクルなどを扱う。
10	デジタルと情報格差を考える	ICTの普及と格差、教育・情報アクセスをめぐる課題を考える。
11	ジェンダーとイノベーションを考える	多様性の尊重がイノベーションにどうつながるかを検討。
12	平和と公正を考える	難民や移民、差別、人権などに関する公正な社会を考察。
13	観光と文化を考える	観光と経済発展、環境保護、地域文化のバランスを考える。
14	自分ができることを考える	個人の行動やライフスタイルを見直し、将来像を描く。
15	テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジユメを使用する。口
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	